

4 カメムシ類による斑点米の発生防止

1 カメムシの発生・増殖しにくい環境づくり

- 麦跡田では、大豆、園芸作物、緑肥等の栽培で、雑草の繁茂を抑制
- 畦畔等の雑草地は、**イネ科雑草の穂が出る前に草刈り**を実施

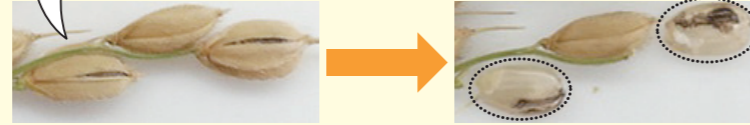


アカヒゲホソミドリカスミカメ (体長6mm) アカスジカスミカメ (体長5~7mm)

2 割削の発生軽減

- ケイ酸質資材の施用
- 適正な栽培管理による適正籾数の確保

2年産では、割削が多く発生

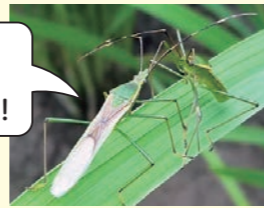


籾が割れると、カメムシが米を吸汁しやすくなる

3 適正な防除の実施

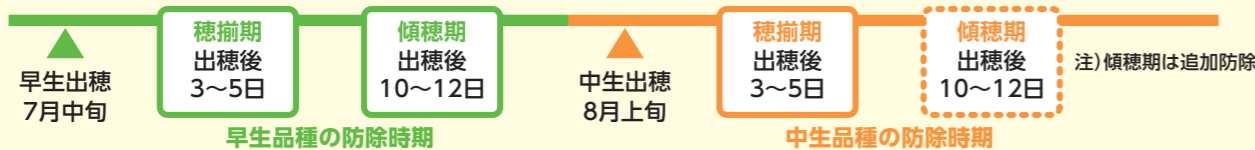
- **防除効果の高い薬剤を使用**
- 早生品種や大型カメムシが多い地域では、**穂揃期と傾穂期の2回防除を徹底**
- 防除後もカメムシが多い場合は追加防除
- 早生品種と中生品種では防除時期が異なるので注意

大型のカメムシが山際を中心に増加しています。追加防除など対策の徹底を!



フモヘリカメムシ (体長16mm)

品種ごとの防除時期の違い



R2年産「てんたかく81」の倒伏の要因とR3年産対策

主な要因: ①穂数が多い、②草丈及び稈長が長い、③局地的・短時間の降雨、④窒素施用量が多い、⑤不十分な中干し

対策: ①適正基肥施用量の遵守、②適期に確実な中干しの実施、③追加穂肥は原則施用しない

春の土づくり運動(令和3年3月~5月)

- 土壤改良資材の施用により、ケイ酸・アルカリ分・加里等を補給する 高品質で美味しい米生産には土づくりが重要!
- 堆肥や緑肥等有機物の施用により、土壤の肥沃度、排水性・保水性を向上させる
- 深耕により作物の根域を拡大させ、肥料の吸収効率を高める 作土深15cm以上を確保!

農業生産に由来するプラスチックの適正処理について

近年、海洋ごみをはじめとしたプラスチック問題が注目され、その対応が強く求められています。農業生産現場においても次の点を実践し、プラスチックと正しく付き合しましょう。

- **農業由来廃プラスチックの適正処理**
 - 基本となるリサイクルの推進
 - リサイクルに必要な分別の徹底
- **農業由来廃プラスチックの排出抑制**
 - 耐久性の高い被覆資材等の利用
 - 資材の再利用の促進
 - 生分解性資材の活用
- **被覆肥料の被膜殻の流出防止**
 - 浅水代かきによる被膜殻流出防止
 - 田植え前の強制落水の回避



高品質でおいしい富山米を食卓へ 「ほおばる幸せ。富山米」

令和2年産は、梅雨の低日射や出穂後の猛暑など気象変動が激しい条件の中、1等米比率は89.3% (令和2年11月末)となっています。

令和3年産は、1等米比率90%以上を目指して技術対策の徹底をお願いします!

技術対策の4本柱

- 1 5月15日中心の田植えの確実な実施
- 2 適正穂数の確保と過剰な籾数の防止
- 3 こまめな水管理・施肥による稲体活力の維持
- 4 カメムシ類による斑点米の発生防止

「元気な富山米ブランド」確立のための重点技術対策

～ めざせ! 1等米比率90%以上～

1 5月15日中心の田植えの確実な実施

1 コシヒカリの田植えは5月15日を中心に!

- 出穂後の高温を避けるため、田植えは5月15日を中心に実施

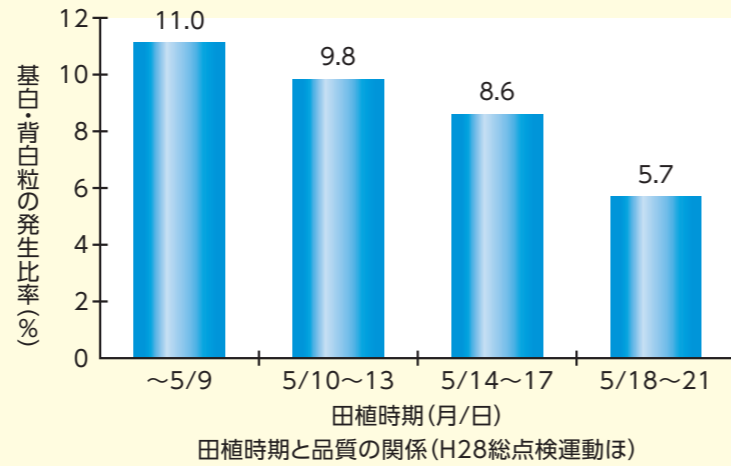
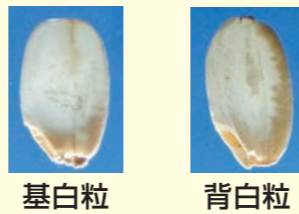
田植え日と出穂期及び登熟期間の気温

田植え日 (月/日)	出穂期 (月/日)	出穂後20日間の平均気温(°C)
5/5	7/29	28.0
5/10	8/1	27.9
5/15	8/4	27.7
5/20	8/7	27.3

※出穂期および気温は近年値(H23～R2)を用いた

近年の田植盛期は5/11頃
5/15中心の田植えで高温登熟の回避を!!

出穂後の高温で発生する未熟粒



出穂後の高温を回避すれば、基白・背白粒の発生が減少!

2 田植時期に合わせた播種・育苗を!

- 苗の活力を維持するため、**播種は、あわてずに4月25日頃**に実施
- 4月下旬以降は気温が上昇し、苗が長くなりやすいので、**搬出直後から積極的に換気**

育苗計画の目安

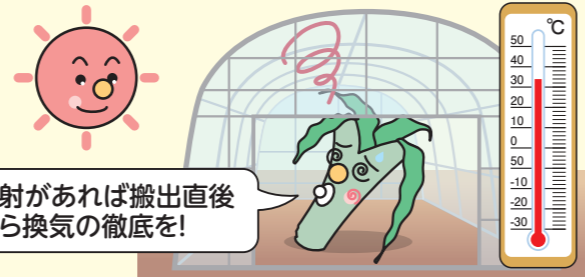
浸種日	播種日	田植日	育苗日数	出穂期
4/8頃	4/19頃	5/10	21日	8/1頃
4/16頃	4/25頃	5/15	20日	8/4頃
4/24頃	5/2頃	5/20	18日	8/7頃

播種日～田植日は20日間以内

近年の育苗期間は高温・高日射傾向

育苗期間中の温度管理の目安

苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度 昼	30°C	25°C以下	
温度 夜	30°C	10°C以上	

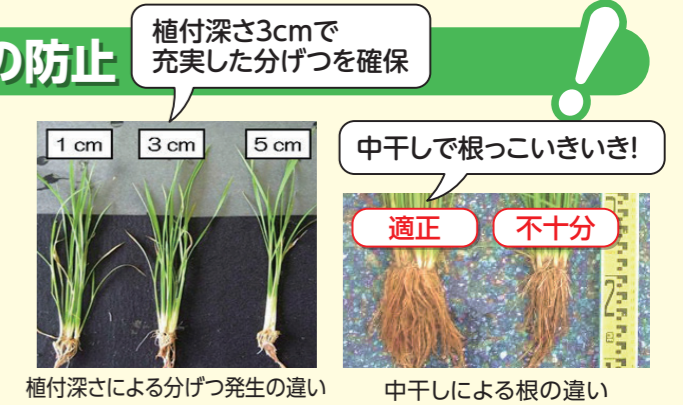


日射があれば搬出直後から換気の徹底を!

2 適正穂数の確保と過剰な籾数の防止

1 初期茎数の確保を!

- **栽植密度70株、植付本数3～4本、植付深さ3cmの徹底**
- 土壌に応じた基肥窒素の施用
砂壤土3.0～4.0kg/10a
埴壤土1.8～2.6kg/10a



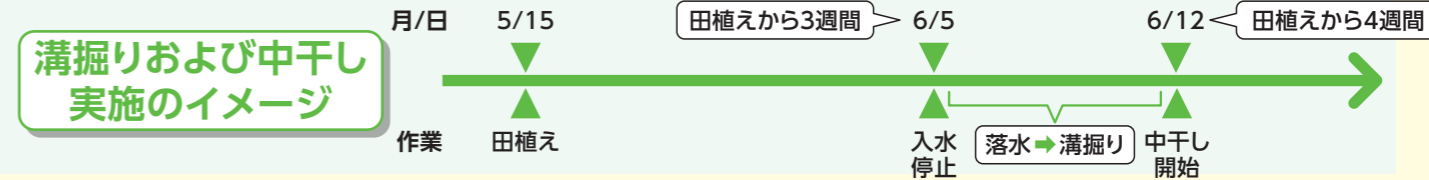
2 溝掘り・中干しの徹底を!

- 6月上旬の**溝掘りの実施**
- **中干しは田植後4週間までに確実に開始**

開始の目安は茎数320本/m²

中干し開始日の目安

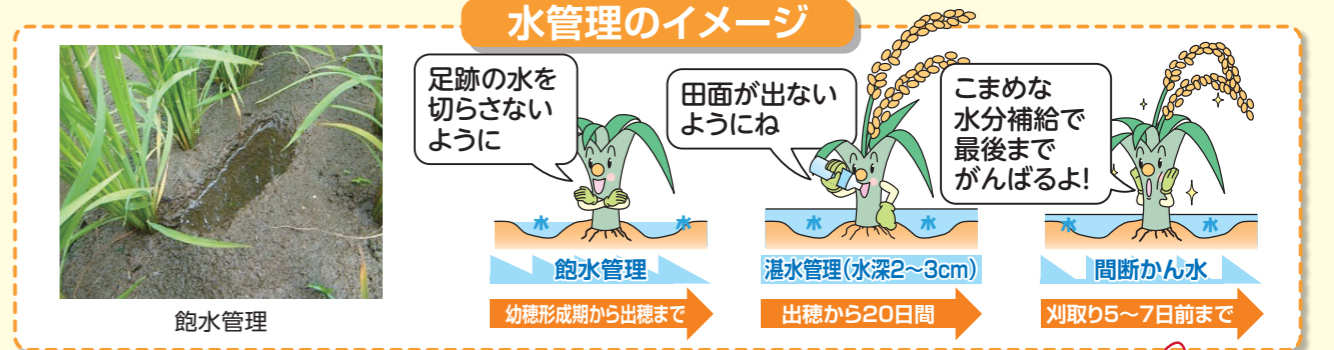
田植日	中干し開始日
5/10	6/7頃
5/15	6/12頃
5/20	6/17頃



3 こまめな水管理・施肥による稲体活力の維持

1 こまめな水管理を!

- 幼穂形成期以降は**飽水管理**、出穂後20日間は**湛水管理**
- 刈取り5～7日前までは**間断かん水**



2 的確な穂肥施用を!

- **穂揃期の葉色を4.2～4.5 (砂壤土は4.5) に誘導**
- 肥効調節型基肥栽培でも、葉色が薄い場合は**追加穂肥を施用**

